

ジャパンメディック

保水フェースマスク開発

自社初の医薬部外品

外用剤メーカーのジャパンメディック（富山市横越、前田和也社長）は、保水効果があるヘパリン類似物質を配合した「薬用フェイシャルマスク」を開発した。11日から、「マツモトキヨシ」を展開するマツキヨココカラ＆カンパニーのプライベートブランド（PB）として、全国の店舗で発売する。自社初の医薬部外品で、ヘルスケア意識の高まりによる需要を取り込む。

（村田美七海）

開発に着手。化粧水や乳液に使われる高い保湿作用があるヘパリン類似物質を配合させることで、乾燥による肌荒れを防ぐ効果を実現した。

同物質は濃度が薄い状態だとデータを取得しづらく、分析の難易度が高い。ジャパンメディックはこれ

まで医薬品で同物質を扱ってきたノウハウを生かして分析技術確立。同社によると、同物質を配合したフェースマスクは、広く販売されている製品としては国内初という。

シートには密着性に優れた素材「ベンリーゼ」を採用し、剥がれにくくした。全国の約3500店舗で、5枚入りを1320円（税

医薬部外品は、医薬品と化粧品の間位置付けられ、国が許可した特定の効能効果に有効な成分が、一定の濃度で配合された製品。厚生労働省の薬事工業生産動態統計年報によると、2023年の国内生産額は1兆4248億円、19年から6%伸びた。

ジャパンメディックはOTC（薬局・薬店向け）医薬品の外用剤を中心に開発や製造を行う。PB戦略を強化しているマツキヨの保湿ケア商品「ヒルメナイドシリーズ」で、医薬品のクリームやローション7製品も手がけている。フェースマスクは21年に



ジャパンメディックが製造販売するヘパリン類似物質を配合した「薬用フェイシャルマスク」

込で発売。年間で10万個程度の売り上げを目指す。同社は「くすりだけを、つくらない。」をビジョンに掲げ、医薬部外品や化粧品など、主力の医薬品以外の商品開発を進めている。前田社長は「予防やアフターケアの重要性は高まっており、そうした需要にも対応していきたい」としている。